

研究主題 『遊び込む幼児を育む』
～ごっこ遊びを通して～

育てたい力

<視点>

幼児が「もっとやりたい
またやりたい」と思える
ための教師の援助

<本園の幼児の実態より>

- 「もっとこうしたい」と貪欲に遊ぶ力（遊ぶ意欲）
- 自分の思いや考えを伝え合って、人とのかかわりを楽しみながら遊ぶ力。

<目指す姿>

好きな遊びに「こうしたい」
という思いをもってかかわり、
**おもしろさを感じながら
夢中になって遊ぶ姿**

繰り返し遊ぶ中で自分なりの
目的に向かって**考えたり工夫
したりして探究していく姿**

遊び方がわかり、感じたこと、
考えたこと、発見したことなど
を周りに伝え**楽しさを共有し
ながら自分たちで進めようと
する姿**

「もっとやりたい」「またやりたい」と心を動かし遊ぶ姿
の例（話し合いの土台となった姿）

他学年の遊びに憧
れの気持ちを持ち、
**自分たちなりにや
ってみようとする
姿**

自分の力で**再現して**遊
ぶ、必要な場や物を自分
なりに**工夫して**じっく
りと作る姿

イメージを伝え合
い、「私たちでやる
から」と**自分たち
の力**で遊びを進め
ることを喜び、夢
中になる姿

遊びの中で発見し
たことを自分の遊
びに結び付け再現
して遊ぶ姿

園生活で経験し**蓄えてきた
ことを出しながら**、遊びの
イメージや見通しを持ち、
作る楽しさ、提供する楽し
さ、やり取りの楽しさなど
を感じ、自分たちのやりた
いことを実現させていく姿



こうすれば楽しくな
るということがわか
り、他学年の幼児や
教師に自分たちの言
葉で伝え、招くなど、
**遊びが自分たちの物
になっている姿**

遊びに必要な物を作る
時に、うまくいかない
からこそ、**苦勞して何
とかしようと試し、気
付き、工夫する姿**

幼児の姿を受け ての話し合いから

幼児が遊び込むための援助のポイント (有効だった援助・今後必要な援助 等)

環境の構成

- ・ 自分で遊び出しができる、何にでもなれるなど、**やりたいことがすぐに出来る**環境構成。
- ・ 経験したことを、自分の遊びに**再現、転換して遊ぶことができる**環境構成。
- ・ 園全体で、互いの**遊びが見える**、互いに**触れ合うことができる**遊びの場の構成の工夫。

教師の援助

- ・ 教師が場や遊びを**整理しすぎず**、自分なりに工夫したり、試したりすることができる**環境の保障**。
- ・ 幼児の**動きに寄り添い、気付きを待ち**一緒に考えながら遊びを作っていくことができるような**待つ姿勢**。

- ・ 幼児に今、経験させたいことを考慮し、楽しかったという満足感をもち遊びを終えることができるような、**終息のさせ方**の工夫。
- ・ 遊びを始めた幼児の思い、リーダーシップをとる幼児と周囲の幼児の**関係性などを見極め**、個々の幼児が思いを実現させ満足感を味わえる場の工夫。



<研究の成果と課題>

<成果>

- ・ 常に保育の中で「もっとやりたい、またやりたい」という幼児の心の動きを捉えようと意識しながら援助の方向性を考えることができた。また、保育研究などで多角的に幼児の姿や教師の援助について話し合っていくことで、その**時期や幼児の実態に応じた、必要な“育ち”や“教師の援助”を確認しながら保育を見直し、「遊び込む幼児」を育むことにつながった**。
- ・ 実践を通して私たちが大切にしたいと捉えた姿は、3点の“目指す姿”につながっており、『遊び込む幼児を育む』という研究主題に迫ることができたのではないかと。
- ・ 「ごっこ遊び」の中で他学年の幼児、教師など様々な人とのかかわりが生まれることで、自分の言葉で伝えようとする姿や、来てくれる相手を思い描きながら場を作るなどの姿が見られるようになり、ごっこ遊びが更に楽しくなり、幼児の意欲につながっていくことがわかった。

<課題>

- ・ 視点をもとに、幼児の育ちの見取りや必要な教師の援助について話し合いを深め確認することができたが、研究主題に向け「これが遊び込む姿である」「こんな援助が有効」などと、**更に明確に共有化**していけるとよい。
- ・ 年中・年長担任2人の話に重きが置かれていた。**園全体の幼児の成長を促していく**ためにも、様々な事例を出し合い検証していく必要があると感じる。
- ・ 「ごっこ遊び」の中で意欲的に遊ぶ姿や、人とのかかわりを楽しみながら遊びを創りだしていく姿など、育てたい力の伸びが見られ、幼児期の発達に有効な遊びであると考え、今年度の成果を踏まえ、「ごっこ遊び」を通して、**焦点化**された話し合いのもと主題に迫っていきたい。